



馬が岳開山の行者  
(小屋権次郎と伝説する)  
が、修行一ヶ月の間、  
(粥餅しか食べなかった、  
という由來から地名となっ  
ている。右側に二つの  
大岩があって、左側  
には冷たい水が流  
れている涼しいところ。

岩肌が三角形に尖  
って、見るからに危  
い岩稜である「双渡  
り」の山だ。今迄の  
樹林の間の山道と  
違って緊張する。  
写真を撮り、左右  
の展望を楽しみ  
ながら、身軽にバ  
ランスをもって通  
過する。

黒戸山を巻き終り、  
シャクナゲを見ながら  
10分下るとアン部を  
過ぎ、屏風小屋の裏に  
着く。霊神碑と祠の  
前でめしだ。  
ここまで4時間40分、  
鈴鹿と同じく無風  
の暑い登山、甲斐駒  
頂上まであと4時間。

七合目の小屋に着く。  
小屋の主人「早いなあ、  
こんなに早くどうして来た  
? まだ10時半じゃ上は  
ガスで何も見えなくて  
こぼって御来迎を見  
て行ったら……あんな  
達の足なす馬も越え  
られさう止まないと。

花崗岩で出来た  
大鳥居をくぐり、  
最後の難所地獄  
谷を左に見なが  
ら、岩石の間を這  
いつくばってよじ登  
る。氷砂糖を  
噛みながら大  
格闘である。

(と言う)  
道を失って、8人パーティ  
に付いて下る。  
この砂礫の下りは間違  
いやすいので注意、私  
たはドンドン下り過ぎ  
て引き返し、見上げると  
道標が立っており、そこ  
まで戻って安心。

8人パーティは下って行  
ってしまった。  
私たちは戻って約60分  
の損失だった。

昼食を食べ終ると元  
気になる。石碑の右側  
を回り込むと、切り立  
った屏風岩にかけられ  
たハシゴが垂直に立  
っている。飯島さん、  
拍手打って一歩して登  
る。  
第一のハシゴ27段、次  
は7.5.9.4.12.7段と  
続き4分登り終る。ヤ  
レヤレと思うとまた  
ハシゴとくさり場で、  
岩石累々たる間を手  
でつかまってはよじ登  
るようにして難間を越  
える。

まずは登山口の神社  
に行き、無事登る原  
則をお祈りする。  
神社の左側を下ると、  
よく揺れる吊橋を渡  
る。  
谷田さん元気でトッ  
プに行く。

朝から13時間、摩利  
支天の下りでたまに水  
をかければ12時間で  
時間早く到着できた  
が、彼ら8人パーティ  
はここまで下って行  
ったので、あろうか  
と先ずはビールで  
乾杯。

16:30ガラク場を  
通過して、駒津峰の  
斜面は火山岩の赤茶  
色な異様な堆積にビ  
ックリ。その光景は  
古代ヘタムスリッ  
したような錯覚に  
落ち入り、今にも  
恐竜が出現しそ  
うな気がする。

駒津峰からは急斜面  
の大下りを駆け降り  
て回り込むと、パ  
ーと明るい広場に出  
た。ここが仙水峠か  
、振り向くと、白灰  
色の異様な形相の大  
入道の巨匠に似た  
摩利支天峰が高くそ  
びえている。もう  
あとコースタイム  
15分で北沢峠である。

